

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372101465		
法人名	有限会社 真寿会		
事業所名	グループホーム楽楽苑 (富士)		
所在地	岡崎市真伝2丁目1番地4		
自己評価作成日	平成30年 2月18日	評価結果市町村受理日	平成30年 4月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JizyosyoCd=2372101465-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年 3月 8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者ごとの状態に合わせたケアに取り組んでおり、利用者さんがその人らしく暮らせるように支援しています。季節ごとの掲示板を掲示し、歌を唄ったり地域へと散歩や買い物などに出掛けたりしながらのんびりと生活ができるように心掛けております。盆踊りや地域への催し物(芋掘り体験などの様々な体験教室や踊りの観賞など)小学生の慰問(職場体験や慰問、敬老会や運動会への参加など)地域と利用者さんとの関わりを大切にしております。毎月その季節ごとの行事や家族参加行事を行い、利用者さんご家族の交流の機会を作ったり利用者さんに季節感を感じてもらえるように努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

行事が多彩で、利用者の笑顔に繋がっている。初詣、餅つき、節分、ドライブ花見、ホームのお祭りや運動会、花火大会、BBQや外出支援を兼ねたバス旅行もあり、家族参加の機会も多い。看取りの際、親子関係が良くなかったが、家族が看取りに関われる環境を整え、ゆっくりと利用者と一緒に過ごす時間を提供し、結果的に親子関係が修復され、看取り後に感謝の言葉が寄せられた。現在、管理者は、職員のレベルアップのための施策に注力し、身体拘束や虐待についての知識を一刻も早く周知徹底させ、利用者本位の支援が行われることを望んでいる。一部の職員の不適切とも取れる支援があったが、管理者の思いが全職員に伝わり、利用者最優先の支援が実践されることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に見えるところへ掲げいつでも目に入るようにしている。	「地域と共にゆっくりゆったりその人らしく」を理念としている。入社時に説明をしているが、説明だけで終わっている事を法人は感じており、来年度初めから目標を立て、職員に浸透するように計画している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩中の挨拶やスタッフの通勤時間等、職員側からの挨拶も心がけている。また継続して地域の行事に参加したり市の催しに参加したりしている。さらに苑主催の認知症の研修会に参加を呼びかけている。	町内会に加入し、盆踊りや敬老会、防災訓練等に参加して交流している。近隣の小学校・高校・大学からの福祉体験や職業体験を受け入れ、子供と関わることによって、利用者の笑顔が増えることを狙っている。	ホームで行うお祭り等の呼びかけを地域に向けて行っているが、参加が無い。回覧板を活用し、ホームの存在と活動を発信して参加に結びつけることを提案する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩などの外出時にお話をしたり地域の総代さんを通じて高齢者や認知症高齢者の家族の悩みなどを聞いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	苑の状況を報告すると同時に地域の防災会議への参加や地域の連絡協議会に参加し苑の説明をしかかできる事はないか模索している。地域行事に積極的に参加するようにしている。	運営会議には地域包括支援センター・地域総代・持ち回りの家族代表・利用者が参加している。議事録は、前回会議で報告したことの振り返りや意見交換の内容が乏しいが、ホームの現状報告がなされている。	家族の参加を呼びかけ、行事に併せて運営推進会議を行う事を提案する。ホーム状況だけでなく、議題を提供し意義のある運営推進会議が実施されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	質問がある時には連絡したり直接窓口へ行くようにしている。	法人は市の研修会やグループホーム連絡協議会に参加し、情報交換を行っている。地域包括支援センターからは入居の問合せがある。認知症カフェを思案中であるが、現在は人手不足で実施できない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行事等に関するものは張り出して常に見えるところに掲示している。また、年に1度、スタッフに対して身体拘束をしないケアの研修を開いたり、外部研修がある時には積極的に参加している。	玄関・ユニット共に施錠を行っている。年1回身体拘束の研修を行っているが、出席は全員ではなく、知識が浸透しているか疑問がある。家族からは、「職員の理解不足」と「安心・安全面で不安を感じる」との意見が挙がっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	主な虐待等に関してはスタッフルーム内に掲示し、年に1度スタッフに対しての研修を開いたり、外部研修がある時には積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、知識を得るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	話し合いの機会を多く作り、わからない事なども積極的に聞くようにし、お互いが理解、納得をした上で行うようにしている。また、利用者さんの今までの生活の状況を利用者様、ご家族様に、時間の許す限り細かく聞くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回の家族会の実施や運営推進会議の中にも盛り込んだりしている。また、日々の生活の中や相談員の来苑時などにも設けている。	介護計画の話し合い時に要望を聞き、日頃の面会時にも意見を受け止めている。家族への説明不足のためか、職員と家族とのコミュニケーションが不足しており、今後、管理者はその対応を最重点に考えている。	ホーム全体で、家族への利用者についての説明の仕方、要望の受け止め方について見直す機会を設ける事を期待したい。早急に改善されることを望む。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やカンファレンスの中で話し合ったり、日々の業務の合間などで行っている。	管理者が、日頃から職員の意見を直接聞き取っている。利用者支援のため、備品の置き方や設備の改善等の意見が職員から挙がり、改善したこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人ひとりで評価しそれをふまえて賞与を出したり昇給したりしている。また、出来る限り職員間で苑を作っていってもらうようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度法人内の管理者会議を行ったり、直接現場を確認したりし職場内で研修や勉強会を行ったり法人内全ての事業所合同で勉強会をしたりしている。また、外部研修なども参加してもらっているようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市、他市共、相互訪問や合同研修等を行いながら情報交換や意見交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員1人ひとりが気を付けて見守り、動き回っている中でも短時間でも足をとめ、聞く時間を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時から時間を確保しながら場の雰囲気を作りながら話しを聞く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望があれば色々なサービスなどを紹介しながら行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼食は一緒に摂るようにイベントなどは職員も一緒に楽しめる事を計画目標にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフは本人の気持ちを考えるように努め、家族と共に話しをする機会を依頼したり行事に共に参加していただいたり絆を深めてもらえるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の出入り、喫茶店(なじみ)への外出等を行い関係の継続を図っている。また、デイサービスを利用されている方もおり交流をもてるような環境作りを行っている。	週刊誌の購読を継続している利用者や、併設のデイサービスに友人に会いに行く利用者もいる。昔から通う喫茶店の店主の訪問が続いている。家族との外食に、定期的に出かけている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃からの状況や精神状態をふまえながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や急変での対応がほとんどであり、その際にはお見舞いに足を運んだり連絡したりしながら状況を聞きながら相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の思いや家族に家での状況を聞きながら対応している。また、話しやすい場を作るように雰囲気作りを行ったり信頼関係を構築できるよう努めている。	職員は利用者へ話しかけ、会話の中で表情・仕草で思いを察している。家族からの意見も参考にして支援に繋げているが、人手不足もあって利用者の意向に添わず、職員本位の支援になっている事も見受けられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の調査の際の観察や入所時の家族による生活歴の記入をもとにカルテ等に記載し把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のスタッフ同士のコミュニケーションやカンファレンスやミーティングや全体会議などを通じ定期的に行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当が主となりカンファレンスを開いて意見交換などを行っている。また、全体会議内で意見交換をするようにしている。	カンファレンスや申し送りノートから利用者の様子を把握し、介護計画に反映させようとしている。しかし、家族との話し合いが不足しており、介護計画には家族・利用者の意向が十分に反映されていない。	利用者の意向を把握し、職員が計画作成担当者に伝えるシステムを見直し、再構築する事を提案する。話し合った内容を振り返るツールとして記録を残して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスやミーティング、全体会議などや日頃の業務の合間にユニット間で話し合い現状を把握しながら見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームで可能な範囲で支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物などに参加したりボランティアなど利用者の必要に応じ協力支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週水曜日には往診があり緊急時には電話連絡により受診又は往診をしてもらっている。	協力医による往診が週1回あり、看護師や薬剤師とも医療連携を行っている。服薬ミスがなく、薬剤師の管理指導や服薬指導が徹底し、複数職員による確認システムの成果が見られる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日の往診時に一緒に来て相談等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、家族とこまめに連絡をとったり面会に行き直接確認したりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明させて頂いている。また、重度化の際は苑、家族、かかりつけ医を含めて今後の支援方法について話し合いを行っている。	看取りについて、協力医の前向きな協力がある。希望があれば期待に沿う事とし、家族との話し合いを行っている。親子関係が良くなかったが、看取りを終えるまで家族にゆとりと過ごせる時間を提供し、家族からは「有難う」との感謝の言葉があった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員1人ひとりにマニュアルを渡している。また、スタッフルームにマニュアルを保管している。また、全体会議内でひやり・はっこの内容について検証しリスクマネジメントを実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の動きに関してはスタッフルーム内に掲示している。地域とは連絡会や町内の防災会議に参加し夜間の避難の協力を依頼したり民生委員・近所の交番などにも依頼している。	年2回、避難訓練を実施しており、1週間分の食料備蓄を持っている。町内の防災訓練の経路に加えてもらい、今後は地域の人に避難場所として使ってもらえたらと構想中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護については定期的に全体ミーティング時に話したり年に1度研修会を開いたり外部研修会に参加してもらえるように促している。	利用者の意欲を損ねる様な言葉かけやふるまいを行わない様に配慮している。しかし、トイレやドアなどノックしておらず、声掛けも荒々しく感じられる職員がいた。	全職員が、利用者の人格を尊重する声掛けの仕方やプライバシー確保についての研修や勉強会を行い、深い配慮をもって支援に臨む事を提案する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢が沢山あるとわからなくなってしまう方もみえる為、その時々で場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日によって変化する為、スタッフからの声掛けや利用者さんの行動を観察したり日常の様子を把握したりしながらその人一人ひとりに合った生活スタイルを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事などでお化粧をしたり、いくつかの服のコーディネートをし利用者さんに選んでもらうようにしている。また、ボランティアで散髪なども実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や外食、苑外の食事などを行い雰囲気を変えながら対応している。また、プランターで野菜を育てたりし野菜の世話を利用者さんにしてもらったりしている。	決まったメニューの食材が業者から運ばれ、それを調理して提供している。野菜を切ったり食器拭きの出来る利用者があり、見守ることで残存機能の維持と意欲高揚に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を把握する為、独自のボードを用いてチェックしている。また、その方の好み等を取り入れ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の日課として行っている。また、一人ひとりの状態に合わせて歯磨き粉、うがい薬、口腔内清拭など分けて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表などの独自のボードを活用し排泄・排便パターンをチェックしている。	排泄記録を付け、利用者個々に時間を見て声掛けを行っている。夜間だけポータブルトイレを使用している利用者もいる。適切な声掛けの成果が出て、紙パンツから布パンツに戻った利用者がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段より入浴をこまめに実施したり排泄状態の把握や下剤による調節、アイスやヨーグルトなどの摂取や毎日の体操や運動を行い排便を促す支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人ひとりの利用者さんのその日の体調や状態や気持ちを確認して入浴の支援を行っている。	1日おきに入浴支援を行っている。シャンプー・リンス・ボディソープ等は、利用者個々にこだわりがあるので個人で用意している。入浴拒否をする利用者には時間を変えて再度声掛けを行い、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の状態などを考え、日中動いてもらったり眠気がみられるまで一緒に過ごしたり、夜間の不安を解消したりして安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は各カルテにはさんでいる。また翌日の服薬をセットする場所に服薬名、数の一覧表を掲示し確認しながらチェックし日中と夜間のダブルチェックを行っている。服薬ができれば独自のチェックシートにチェックを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や裁縫、歌、編み物や掃除、園芸などその人に合ったものを日常的に提供している。また、定期的にカンファレンスを開きその人一人ひとりの好みをスタッフ全員で考えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩も含め、その日の利用者さんの状態や天気等見ながら支援している。	以前は散歩等を日常的に行っていたが、現在は人手不足で行けないのが実情である。買い物や神社に散歩に行きたい等、リクエストがあると支援を行っている。季節ごとにドライブでお花見に行ったり、家族も一緒にバス旅行に参加したりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時に物を選んでもらったり実際に支払いをしたり、チラシや広告などを話しながら見たりなどその人その人に合った支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせていつでもできるようにしている。その際、職員から前もって家族に連絡するようにしている。お正月やお盆などご家族様宛にお手紙を書く支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや居間に花を飾ったり、音楽を流す時間やテレビを見る時間や調理風景や出来立ての食事の臭いをかいで頂いたりなど家庭的な雰囲気を作るように支援している。	ホームは利用者の作品や写真、書画の作品が隙間なく飾られ、賑やかである。食堂兼居間には複数の机や椅子等が置かれ、職員や利用者同士が談笑したり、個々にくつろいでテレビを見て過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中にいくつかソファを置いたり椅子をいくつか並べ工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、話しをし極力本人の使用していたものなどを持ち込んで頂けるように依頼している。	洋室・和室があり、馴染みのこたつやタンス、テレビ等、沢山の物が持ち込まれている。昔からのその人らしい生活が見られ、以前と変わらない生活が継続されていると感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなどには名前を表示している。また、廊下に手すりをつけたり口腔ケアの用具を洗面台に置いたりとその人が自発的に実施しやすいような環境作りに努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372101465		
法人名	有限会社 真寿会		
事業所名	グループホーム楽楽苑		
所在地	岡崎市真伝2丁目1番地4		
自己評価作成日	平成30年 2月18日	評価結果市町村受理日	平成30年 4月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2372101465-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年 3月 8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者ごとの状態に合わせたケアに取り組んでおり、利用者さんがその人らしく暮らせるように支援しています。季節ごとの掲示板を掲示し、歌を唄ったり地域へと散歩や買い物などに出掛けたりしながらのんびりと生活ができるように心掛けております。盆踊りや地域への催し物(芋掘り体験などの様々な体験教室や踊りの観賞など)小学生の慰問(職場体験や慰問、敬老会や運動会への参加など)地域と利用者さんとの関わりを大切にしております。毎月その季節ごとの行事や家族参加行事を行い、利用者さんご家族との交流の機会を作ったり利用者さんに季節感を感じてもらえるように努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に見えるところへ掲げいつでも目に入るようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩中の挨拶やスタッフの通勤時間等、職員側からの挨拶も心がけている。また継続して地域の行事に参加したり市の催しに参加したりしている。さらに苑主催の認知症の研修会に参加を呼びかけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩などの外出時にお話をしたり地域の総代さんを通じて高齢者や認知症高齢者の家族の悩みなどを聞いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	苑の状況を報告すると同時に地域の防災会議への参加や地域の連絡協議会に参加し苑の説明をしかできる事はないか模索している。地域の行事に積極的に参加している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	質問がある時には連絡したり直接窓口へ行くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行事等に関するものは張り出して常に見えるところに掲示している。また、年に1度、スタッフに対して身体拘束をしないケアの研修を開いたり、外部研修がある時には積極的に参加している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	主な虐待等に関してはスタッフルーム内に掲示し、年に1度スタッフに対しての研修を開いたり、外部研修がある時には積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、知識を得るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	話し合いの機会を多く作り、わからない事なども積極的に聞くようにし、お互いが理解、納得をした上で行うようにしている。また、利用者さんの今までの生活の状況を利用者様、ご家族様に、時間の許す限り細かく聞くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回の家族会の実施や運営推進会議の中にも盛り込んだりしている。また、日々の生活の中や相談員の来苑時などにも設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やカンファレンスの中で話し合ったり、日々の業務の合間などで行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人ひとりで評価しそれをふまえて賞与を出したり昇給したりしている。また、出来る限り職員間で苑を作っていってもらっているようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度法人内の管理者会議を行ったり、直接現場を確認したりし職場内で研修や勉強会を行ったり法人内全ての事業所合同で勉強会をしたりしている。また、外部研修なども参加してもらっているようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市、他市共、相互訪問や合同研修等を行いながら情報交換や意見交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員1人ひとりが気を付けて見守り、動き回っている中でも短時間でも足をとめ、聞く時間を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時から時間を確保しながら場の雰囲気を作りながら話しを聞く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望があれば色々なサービスなどを紹介しながら行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼食は一緒に摂るようにイベントなどは職員も一緒に楽しめる事を計画目標にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフは本人の気持ちを考えるように努め、家族と共に話しをする機会を依頼したり行事に共に参加していただいたり絆を深めてもらえるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の出入り、喫茶店(なじみ)への外出等を行い関係の継続を図っている。また、デイサービスを利用されている方もおり交流をもてるような環境作りを行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃からの状況や精神状態をふまえながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や急変での対応がほとんどであり、その際にはお見舞いに足を運んだり連絡したりしながら状況を聞きながら相談にのるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の思いや家族に家での状況を聞きながら対応している。また、話しやすい場を作るように雰囲気作りを行ったり信頼関係を構築できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の調査の際の観察や入所時の家族による生活歴の記入をもとにカルテ等に記載し把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のスタッフ同士のコミュニケーションやカンファレンスやミーティングや全体会議などを通じ定期的に行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当が主となりカンファレンスを開いて意見交換などを行っている。ユニットリーダーを介して他スタッフへ積極的に声掛けを実施するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスやミーティング、全体会議などや日頃の業務の合間にユニット間で話し合い現状を把握しながら見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	全体会議の際にスタッフ間で話し合い対応方法を決め支援している。場合によっては上司に報告し提案、指示を仰ぐようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物などに参加したりボランティアなど利用者の必要に応じ協力支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週水曜日には往診があり緊急時には電話連絡により受診又は往診をしてもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日の往診時に一緒に来て相談等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、家族とこまめに連絡をとったり面会に行き直接確認したりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明させて頂いている。また、重度化の際は苑、家族、かかりつけ医を含めて今後の支援方法について話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員1人ひとりにマニュアルを渡している。また、スタッフルームにマニュアルを保管している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の動きに関してはスタッフルーム内に掲示している。地域とは連絡会や町内の防災会議に参加し夜間の避難の協力を依頼したり民生委員・近所の交番などにも依頼をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護については定期的に全体ミーティング時に話したり年に1度研修会を開いたり外部研修会に参加してもらえるように促している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢が沢山あるとわからなくなってしまう方もみえる為、その時々で場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日によって変化する為、スタッフからの声掛けや利用者さんの行動を観察したり日常の様子を把握したりしながらその人一人ひとりに合った生活スタイルを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事などでお化粧をしたり、いくつかの服のコーディネートをし利用者さんに選んでもらうようにしている。また、ボランティアで散髪なども実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や外食、苑外の食事などを行い雰囲気を変えながら対応している。また、プランターで野菜を育てたりし野菜の世話を利用者さんにしてもらったりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を把握する為、独自のボードを用いてチェックしている。また、その方の好み等を取り入れ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の日課として行っている。また、一人ひとりの状態に合わせて歯磨き粉、うがい薬、口腔内清拭など分けて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表などの独自のボードを活用し排泄・排便パターンをチェックしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段より入浴をこまめに実施したり排泄状態の把握や下剤による調節、アイスやヨーグルトなどの摂取や毎日の体操や運動を行い排便を促す支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人ひとりの利用者さんのその日の体調や状態や気持ちを確認して入浴の支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の状態などを考え、日中動いてもらったり眠気がみられるまで一緒に過ごしたり、夜間の不安を解消したりして安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は各カルテにはさんでいる。また翌日の服薬をセットする場所に服薬名、数の一覧表を掲示し確認しながらチェックし日中と夜間のダブルチェックを行っている。服薬ができれば独自のチェックシートにチェックを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や裁縫、歌、編み物や掃除、園芸などその人に合ったものを日常的に提供している。また、定期的にカンファレンスを開きその人一人ひとりの好みをスタッフ全員で考えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近隣への散歩も含め、その日の利用者さんの状態や天気等見ながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時に物を選んでもらったり実際に支払いをしたり、チラシや広告などを話しながら見たりなどその人その人に合った支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせていつでもできるようにしている。その際、職員から前もって家族に連絡するようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや居間に花を飾ったり、音楽を流す時間やテレビを見る時間や調理風景や出来立ての食事の臭いをかいで頂いたりなど家庭的な雰囲気を作るように支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中にいくつかソファを置いたり椅子をいくつか並べ工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、話しをし極力本人の使用していたものなどを持ち込んで頂けるように依頼している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなどには名前を表示している。また、廊下に手すりをつけたり口腔ケアの用具を洗面台に置いたりとその人が自発的に実施しやすいような環境作りに努めている。		